

英語リーディング教材を利用した教 養力を高める試み(II)

森永弘司(同志社大学)

日本国際教養学会第2回全国大会
岡山大学 2013/3/17

発表概要

1. はじめに
2. 現在の大学の英語教育の2つの潮流
3. 教養教育 (Liberal Arts) の意味と意義
4. 教養についての質問紙調査
5. 感銘を受けた或いは面白いと感じた作品の調査
6. 結果および考察
7. 3種類のテストを使用した英語力の増減の調査
8. 結果および考察
9. まとめ
10. 引用文献

1. はじめに

前回の発表では学生の教養を少しでも深めさせる目的で、古典的名文(主として小説)を14篇収録したテキストで授業をおこなった際に、14人の著者から1人の著者の作品を読んで感銘を受けた点を報告させたレポートの内容から窺える名文に親しむことの効用について発表させていただいた。

今回の発表では主として前回使用した薬袋・森永(2009)『名文で養う英語精読力』と斎藤・中村(2009)『文学で学ぶ英語リーディング』を使用して授業をおこなったクラスでの教養についてのアンケート調査、学生が感銘を受けたり興味を持った作品についての調査及び文学作品が学生の全般的な英語力を伸ばす上で効果があるかどうかを検証するために実施した3種類のテストの結果に関して報告したい。

2. 現在の大学の英語教育の2つの潮流

1. TOEICの得点増を主眼とするカリキュラム

- (1) 標準テストとしての信頼度が高いため、教育効果測定の客観的な指標になる。最近より信頼度の高いテストを目指しSpeakingとWritingテストが導入されるようになった。
- (2) 企業がTOEICの得点を重視する傾向が強くなってきている。(ユニクロ, 楽天では将来社内言語を英語にすることを公表している)

2. ESPプログラムの導入の増加

ESP (English for Specific Purposes) 専門に特化した英語カリキュラムの増加。例えばEnglish for Science and Technology, English for Business, English for Nursing.

3. 教養教育 (Liberal Arts) の意味と意義

1. Liberal Arts の原義

「人を自由にする学問」

古代ギリシャにおいては、リベラル・アーツを学ぶことで非奴隷たる自由人としての資格ともいうべき教養が身に付くと考えられていた。いわば自由人のレーゾン・デートルが教養の修得であった。欧米の名門大学のリベラル・アーツを重視する教育の源もここにあるといえる。

・筒井(2012) — 人間や社会の複雑さを学び,短絡的な発想抑える. 人間や社会を広く深くとらえる「総合的知識人」の育成

・仲正(2008) — 教養の本質は「知的な討論をするための基礎的な能力」の養成

・瀧本(2011) — リベラル・アーツは「人間を自由にするための学問」

私流に解釈すると「人間や社会の問題を考える際に偏見に囚われずに多角的な視野から考察できる知性」

4. 教養についての質問紙調査

受講者87名に対して以下の質問をおこなった。

1. 「文学作品が教養を高める上で効果のある教材かどうか」
2. 「文学作品を大学で教える意義があるかどうか」

	質問1	質問2
「そう思う」	58	52
「強くそう思う」	20	19
「よくわからない」	8	14
「そう思わない」	1	2
「全くそうない」	0	0

9割近い学生が文学作品を教養を高める上で効果ある教材だと考えており、8割弱の学生が大学の英語の授業で文学作品を教えることが意義のあることだと認めていることが判明しました。

5. 感銘を受けた或いは面白いと感じた作品の調査

薬袋・森永『名文で養う英語精読力』を使用したクラスの受講者63名と斎藤・中村『文学で学ぶ英語リーディング』を使用したクラスの受講者24名に対して、テキストに収録されている作品で感銘を受けたもの、或いは面白いと感じたものを選んでもらう(複数の作品を選んでよい)質問紙調査を実施した。

薬袋・森永『名文で養う英語精読力』(N=63)

著者	作品	学生数
O. Henry	<i>A Retrieved Reformation</i>	25
Ernest Hemingway	<i>The Old Man and the Sea</i>	17
Winston Churchill	<i>My Early Life</i>	16
George Orwell	<i>The Animal Farm</i>	12

William Somerset Maugham	<i>The Summing up / A Writer's Notebook</i>	11
William Wilkie Collins	<i>The Family Secret</i>	10
William Henry Davies	<i>The Autobiography of a Super-Tramp</i>	10
Rachel Carson	<i>Silent Spring</i>	10
Arthur Waley	<i>The Tale of Genji</i>	8

George Gissing	The Private Paper of Henry Ryecroft	7
William James	The Varieties of Religious Experiences	6
Robert Lynd	Afternoon Tea	6
Elisabeth Kubler-Ross	On Death and Dying	5
Henry David Thoreau	Walden	3

齋藤・中村『文学で学ぶ英語リーディング』(N=24)

著者	作品	学生数
Charles Dickens	<i>Great Expectations</i>	10
Anonymous	Language of Humor	7
Tim O'Brien	"Ambush"	7
Raymond Carver	"A Small, Good Thing"	6

Lori Peikoff	“Table for Two”	5
Martin Luther King Ellen Glasgow	<i>The Autobiography of Martin Luther King, Jr.</i> <i>The Woman Within</i>	4
Tennessee Williams	<i>A Streetcar Named Desire</i>	4
Benjamin Franklin	“Thirteen Virtues” “Poor Richard’s Maxims”	4
Graham Greene	<i>A Sort of Life</i>	3

Anonymous	8 Passages	2
Matsuo Basho	Sidukasaya iwanishimiiru mushinokoe	2
Tanigawa Shuntaro	「kiga」notameno memoranda	
Nakahara Chuya	Circus	
George Bernard Shaw	Pygmalion	1
Suzanne Vega	“Luka”	1
Brendan Kennelly Robert Pinsky Siegfried Sassoon William Wordsworth	‘Football’ ‘Secret’ ‘Sigh’ ‘ABC’ ‘They’ ‘My Heart Leaps Up’	0

6. 結果および考察

1. 『名文で養う英語精読力』に関しては上位の作品に関して、共通の要素は見い出せなかった。巧みなストーリーの展開と surprise ending で短編の名手とうたわれる O. Henry が1位であった。また老人の stoicism とカジキマグロとの格闘をハードボイルドの文体で描出した Hemingway の『老人と海』の人気も高かった。

また第二次世界大戦中の英国の宰相で後にノーベル文学賞を授与されたChurchillのHarrow校やSandhurst陸軍士官学校時代のエピソードも学生の琴線に触れたようである。またスターリニズムのアレゴリーを豚を主人公にして描いたOrwellの『動物農園』のユニークさに惹きつけられた学生もいた。Maughamのシニカルな恋愛観も学生達に受けたようである。

2. 『文学で学ぶ英語リーディング』に関しては、Dickensの大作『大いなる遺産』の結末の2つのヴァージョンが1位であった。またO'Brienの大岡昇平の『野火』を思い起こさせる“Ambush”の敵兵と対峙した際の詳細な心理描出に感銘を受けた学生も比較的多くいた。またCarverの“A Small, Good Thing”の結末の心温まる場面に感動した学生も少なからずいた。

7. 3種類のテストを使用した英語力の増減の調査

1週目と14或いは15週目に語彙力測定としてNation's Vocabulary Levels Test文法力測定テストとしてStandard Grammar Test of the 7th version英語総合力測定テストとしてC-testを受講生80名に第1週目と第14或いは第15週目に受験させ、英語力の増減の検証をここみた。

8. 結果および考察

Vocabulary Levels Testを用いて1回目の授業時と14回目或いは15回目に実施した結果を比較したところ、平均で409語の語彙数の増加が認められた。文法力の増減の検証はStandard Grammar Test of the 7th versionを使用しておこない、60点満点のこのテストで平均1点の伸びが認められた。英語の総合力の増減に関してはC-testを用いて検証しましたが、100点満点のこのテストで平均6点の伸びが見られた。

9. まとめ

昨年のこの学会で報告させていただきましたように、理系学部の学生459名を対象にした調査で55%の学生が小説を読みたいと答えていました。文系学部の学生235名対象の調査では67%の学生が小説を読みたいと答えていました。女子大学での文系理系学部の学生205名を対象にした調査では81%の学生が小説を読みたいと答えていました。

そして今日報告させて頂きましたようにかなり多くの学生が文学作品が教養を高める上で効果があると答えています。また全般的な英語力を高める上でも効果のある教材であることが判明しました。従って今後も文学教材を使用して学生たちが教養を深めることができる一助となるような授業を実践していきたいと思えます。

11. 引用文献

斎藤・中村(2009)『文学で学ぶ英語リーディング』研究社

薬袋・森永(2009)『名文で養う英語精読力』研究社

森永弘司 (2009)「映画を通して英詩を教える授業の試み—三年間の授業実践を振り返って—」日英言語文化学会第5回年次大会

森永弘司 (2010)「教養課程の英語クラスでの映画を使用した英詩指導の試み」『日英言語文化研究』第3号

森永弘司(2010)「よりよい大学英語教育カリキュラムを作成するための質問紙を利用したニーズ・アナリシス調査」『同志社大学 教育開発センター一年報』第1号

森永弘司 (2011)「映画を利用した考えさせるための授業実践」日英言語文化学会第7回年次大会

森永弘司 (2012)「英語リーディング教材を利用した教養力を高める試み」日本国際教養学会第1回全国大会

森永、池上、松村(2012)「Need Analysisの観点からみた同志社女子大学共通教育における英語教育の特徴と教育的示唆」
“Asphodel” 第47号 同志社女子大学英語英文学会

Morinaga Koji (2012) “Attempt to Teach Literary Texts Utilizing Minai’s Parsing Method” 3rd Liberlit Conference

Morinaga Koji (2013) “Consideration of the Literary Texts from the Three Viewpoints: Heightening Students’ Motivations to Read, Enhancing their Cultures and Improving their English Proficiencies” 4th Liberlit Conference

ご清聴有難うございます